



環境省 自然環境局 生物多様性センター／一般財団法人 自然環境研究センター

モニタリングサイト 1000 高山帯調査速報

No.17 (2026年3月発行)

間ノ岳・北岳山荘を望む (2017.7.31 南アルプス北岳にて小出可能撮影)

今回の速報では、今年度の調査結果及び調査関係者の皆様から頂いた情報等から、大雪山や南アルプス（北岳）であったこと他をご紹介します。

大雪山サイトでコガタスズメバチが確認されました

開花時期の変化を調べる開花フェノロジー調査が実施されていますが、2025年6月14日の調査の際、コマクサ平（標高約1,840m）でキバナシャクナゲに訪花するコガタスズメバチが確認されました。本種は、日本に広く分布しており、緑の少なくなった都市部周辺の環境にも柔軟に対応でき、樹木や民家の軒下等にも営巣します。大雪山に詳しい専門家によると、本種が大雪山の高山帯で確認されたのは初めてとのことでした。

日本のスズメバチ属は寒冷地や高地では少ないとされており、主に平地～低山地で目にする機会が多いです。今回確認された個体は、前年から越冬していた女王バチと考えられますが、コマクサ平のような高地で冬眠して目覚めたのか、それとも低地で目覚めて餌を求めてさまよって高地にたどり着いたのかはわかりません。大雪山では近年セイヨウオオマルハナバチも確認されており、コガタスズメバチを含め、高地で記録される昆虫類の動向を今後も注視する必要があります。



(2025.6.14 北海道上川町 福士義晴撮影)

キバナシャクナゲに訪花するコガタスズメバチ

第6期に向けて調査手法、プロット等の見直しを進めています

モニタリングサイト 1000 高山帯調査が始まって、15年以上が経過しました。この期間、気候変動の影響がより明確になり、ニホンジカが高山帯へ進出するなど、高山帯を取り巻く環境に変化が生じています。また、現在の調査手法では調査者による人為の影響が大きかったり、経年変化が分かりにくかったりする調査項目があることも分かってきました。

これを踏まえ、昨年度の検討会では、モニタリングサイト 1000 の第6期が始まる 2028 年度に向けて調査方法や調査箇所の再検討を行うことが決まりました。今年度は、ほぼ全ての調査関係者にヒアリングを行い、課題を整理して、調査項目ごとに方針の検討を進めました。

【第6期に向けた各調査項目の方針】

気温 継続	植生 方法・プロットの変更	ハイマツ年枝伸長量 継続	チョウ類 目的・手法の変更・サイトの整理
地温・地表温 継続	開花フェノロジー 継続	マルハナバチ類 サイトの変更	地表徘徊性甲虫 継続

【変更する調査項目の主な内容】

チョウ類

- これまで高山蝶の出現個体数を把握することを目的の一つにしていましたが、結果が当日の天気によ左右されやすく経年変化が分かりにくかったため、目的を出現時期の把握へ変更して調査の回数を増やすことになりました。代わりに、4つあった調査サイトを北アルプス（蝶ヶ岳）サイトに限定する予定です。

マルハナバチ類

- 大雪山で雪解けが早い年には雪田の植物群落の開花ピークとマルハナバチの出現時期にずれが生じる可能性が指摘されています。これを踏まえ、マルハナバチ類の出現と訪花植物の開花時期との関係性について調査するため、北アルプス（蝶ヶ岳～常念岳）サイトで行っていた調査を終了し、同じ北アルプスの中で開花フェノロジー（植物の開花時期）の調査も行っている立山において新しくマルハナバチ類調査を開始します。

植生

- これまで雪田と風衝地の典型的な植生にプロット（10m×1m）を設置し、その内部を1000個のマス（10cm×10cm）に区切り、それらマスごとに種の在・不在を記録する詳細な調査を行ってきました。しかし、調査者が周りの植生を踏んで痛める影響が大きく、また典型的な植生を調査するだけでは、山域全体で生じている植生変化を捉えることが難しいことが分かってきたため、多様な植生タイプの地点に1m×1mのプロットを複数設置して、より短時間でできる画像も活用した調査へ変更する予定です。

第6期が始まる 2028 年度にスムーズな移行ができるよう、2026 年度と 2027 年度には調査地の設定、マニュアルの改訂や試行調査を行う見込みです。

蝶ヶ岳で撮影された高山蝶

北アルプスの蝶ヶ岳では2010年から毎年、チョウ類調査を実施しており、毎年多くのチョウ類が確認されています。サイトの皆様からご提供いただいた美しい高山蝶の写真を紹介します。



2025. 8. 9 福本匡志氏撮影

クモマベニヒカゲ(高山蝶)



2025. 8. 9 福本匡志氏撮影

ベニヒカゲ(高山蝶)



2025. 8. 9 福本匡志氏撮影

クジャクチョウ(本州では低山地～山地)



2025. 6. 29 宮田紀英氏撮影

タカネヒカゲ♂(高山蝶)



2025. 6. 29 宮田紀英氏撮影

コヒオドシ(高山蝶)



2025. 8. 9 福本匡志氏撮影

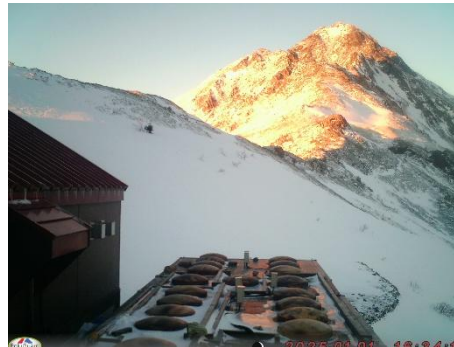
コヒョウモン(低山地～山地性)

南アルプスの北岳山荘に設置した越冬カメラ映像

南アルプス(北岳)サイトでは、雪解け間もなく咲き始める固有種キタダケソウの開花状況を記録するため、一年を通してインターバルカメラを設置しています。厳冬期には氷点下20℃を下回る低温となり、また風速30mにも達する強風が吹くため、密閉式のハウジングと金属製の四脚でカメラを保護して設置しています。このハウジングを新たな仕様のもにに変更することになり、芦安ファンクラブの皆さんの協力のもと、北岳山荘の冬季小屋の階段手すり取り付け、2024年の11月から2025年の6月まで越冬の性能試験をしました。性能試験はうまくいったので、2025年の秋には新しいハウジングに切り替えカメラの越冬を始めました。今回は、その際に撮影された北岳の美しい映像を紹介します。



2024.11.27 撮影



2025.1.1 撮影(夕焼け)



2025.3.20 撮影

モニタリングサイト 1000 高山帯調査 調査速報 No. 17 (2026年3月発行)

発行：環境省 自然環境局 生物多様性センター

編集：(一財)自然環境研究センター 〒130-8606 東京都墨田区江東橋 3-3-7

電話 03-6659-6310 / FAX 03-6659-6320 担当 脇山・辻井・三村

モニタリングサイト 1000 Web サイト：<https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>